

令和4年度がん医療公開講座 ご質問への回答について

この度、がん医療公開講座に参加された皆様には、心から御礼申し上げます。さて、参加された方からのご質問についてご回答いたします。

	質問	回答
1	現在、免疫チェックポイント阻害薬で治療をしているので、お話を聞いて希望を持ってました。同じお薬での治療は可能でしょうか？	質問の意図がやや不明ですが、投与の期間が決まっている場合もありますが、通常は、治療の効果や副作用をみて担当医が投与の継続を決めます。
2	免疫チェックポイント阻害薬による肺がん治療について、保険が使えるのか。いくら位かかるのか。	健康保険が適用されます。 スライド上映にありました免疫チェックポイント阻害薬の単価は以下のとおりです。 ・オブジーボ点滴静注 240mg 366405 円/瓶 ・キイトルーダ点滴静注 100mg 214498 円/瓶 ・イミフィンジ点滴静注 500mg 413539 円/瓶 ・テセントリク点滴静注 1200mg 563917 円/瓶 ・ヤーボイ点滴静注液 50mg 419578 円/瓶 1 瓶あたりの最大使用量の金額を掲載しています。体重や使用量により金額は異なります。 実際の治療については、主治医の先生とご相談ください。
3	免疫チェックポイント阻害薬による肺がん治療について、キイトルーダで4クール治療しているが、使用期限があるのか？	2 年間が目安です。
4	HbA1c7.4 % です。血糖値の変	人の血糖値は常に変動しています。食事前では低くても食後（1～2 時間）では高くなります。質問者様の 1 1 0

<p>動値が激しい。 110～170 mg/dL どちらを重要視 したらよいか？</p>	<p>～170mg/dLの値は、おそらく朝食前の値ではないかと思います。前日の食事や運動の内容によって血糖値はこれくらい変動します。糖尿病の患者さんの血糖値は1日の中ではさらに大きく変動するのです。</p> <p>そこで、何を目標にしたらよいかと考えだされたのがヘモグロビンA1cです。最近1～2か月の血糖値の状態を簡単な数字で表しています。ブドウ糖と結合した赤血球のヘモグロビンの割合を示しています。これが便利です。ヘモグロビンA1c7%以下を目標にしていると良いでしょう。これから7%以下で過ごせば、糖尿病の合併症が進行せずに人生を送ることができます。ヘモグロビンA1c7%を重要と考えてください。</p> <p>質問者様は70歳代とのことですので、低血糖(80mg/dL未満)をなるべく避けていただきたいです。血糖値は低ければ低いほど良いわけではありません。なぜなら、脳はブドウ糖しか栄養として使えませんので、低血糖を繰り返すと脳の認知機能に悪影響があるといわれています。</p> <p>運動はできれば食事の前にしないでください、食事前は血糖値が比較的低いので低血糖を起こしやすいからです。散歩、運動は食後の血糖値が高いときに行ってください。そのほうがヘモグロビンA1cは低血糖を起こさずに安全に下がります。よろしく願い申し上げます。</p>
--	--

なお、アンケートでは、お名前をお伺いしていないため、質問された方の使用されているお薬等が確認できず、お答えできないものもございましたこと、ご理解いただけますと幸いです。

静岡県立総合病院では、県民のみなさまに広く「がん」について知っていただくため、毎年「がん医療公開講座」を開催しております。来年度以降、取り上げて欲しいテーマなどございましたら、ぜひご意見をお寄せください。

また、当日、会場が寒いとお感じになられていた方がいらっしゃったとのこと、この場を借りてお詫び申し上げます。